

(環境・エネルギーー1)

ICT^(注1)を活用した多摩川での植生調査
(神奈川県川崎市、富士通株式会社)

【概要】

川崎市は、川崎市域を流れる多摩川において、NPO法人と市内各「水辺の楽校^(注2)」などと協働し、ICTを活用した植生調査を、2011年より毎年、富士通グループが提供する携帯フォトシステム^(注3)を活用し実施している。このシステムを用いることにより、GPS機能付き携帯電話のカメラで撮影した生物情報をデータベースに蓄積し、地図情報とマッピングして閲覧、分析することができる。市民・企業・行政の協働により多摩川の河川敷で見つけた植物を記録していき、情報共有を図ることで、河川環境における植物特性を探っている。

この調査は、「川崎市多摩川プラン」における施策目標である「企業と育む環境づくり」の具体的な取組みであり、NPO法人と市内各水辺の楽校、富士通、川崎市がそれぞれの特徴を活かし協働した新しいアプローチで環境学習を推進するものである。

【コラム】

川崎市域約28kmを流れる多摩川は、流域ごとに異なった環境特性を見ることができることから、楽しみながら体験学習を行う「水辺の楽校」などが活発に行われている。しかしながら、学習の成果は紙ベースでの取りまとめが主となっていることから、限られた範囲でのみ情報提供が行われてきた。

今回、携帯フォトシステムを活用することで、流域全体で季節ごとに行った植生分布調査の結果をインターネットで公開することができるようになり、各「水辺の楽校」などに対し今後の環境学習に活かせるような共通の基礎となる資料を作ることができるとともに、これまで容易にできなかった地域の特性把握や他地域との比較による環境評価が期待されている。

【多摩川の植生分布調査について】

[対象地域] 多摩川右岸の川崎市域に属する河口原点から多摩川原橋手前までの約28kmの範囲

[調査団体] 川崎市内の市民団体^(注4)

[実施時期及び調査対象生物]

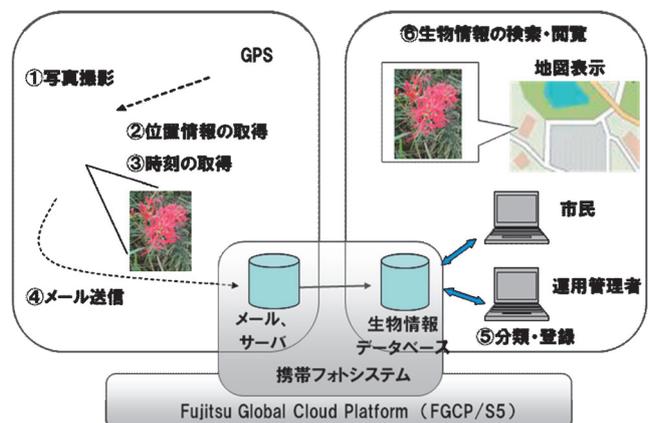
春：ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、ハマダイコンなど

夏：ヒガンバナ、キクイモの仲間、ワルナスビなど

秋：セイタカアワダチソウ、ノギク仲間、センダングサの仲間など



ヒメオドリコソウ オオイヌノフグリ ヒガンバナ



携帯フォトシステム概要図

【調査結果例(春)】

川崎市内の多摩川流域の植物をGPS機能付携帯電話のカメラで撮影、その場で位置情報を取得しメール送信。その後、集まったデータの分類作業を行うことで植生マップが作成される。



川崎市内多摩川流域28kmを4団体で一斉に実施

植生分布マップ完成

【注釈】

- (注1) ICT:情報(Information)や通信(Communication)に関する技術(Technology)の総称。
- (注2) 水辺の楽校:国土交通省河川局が、1999年、地域の水辺を遊びの場、自然体験の場、自然学習の場として整備し、維持管理することを目的に創設したプロジェクト。現在全国で280余りが活動している。
- (注3) 携帯フォトシステム:GPS機能付携帯電話を利用した生態系調査などに便利なソリューション。(提供元:富士通エフ・アイ・ピー株式会社(所在地:東京都江東区、代表取締役社長:浜野一典)富士通が提供するFujitsu Global Cloud Platform (FGCP/S5)上で動作。
- (注4) NPO法人多摩川エコミュージアム、かわさき水辺の楽校、とどろき水辺の楽校、だいい水辺の楽校の4団体。

(問い合わせ先)

川崎市 建設緑政局 緑政部 多摩川施策推進課
TEL:044-200-2268(直通)

富士通株式会社
環境本部 環境企画統括部
TEL:044-754-3413(直通)
問い合わせフォーム:<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/contact/>